



ひがし風



心豊かなたくましいけやきっ子

校長 伊藤 誠

今年になってから、日本海側の各地で雪となるなど厳しい寒さで、最低気温が氷点下となる日もありますが、けやきっ子は登校するとすぐに外に出て走ったり、縄跳びの練習をしたりと、寒風に負けずに体力づくりに励んでいます。

そんな子どもたちからパワーをもらいながら3学期を過ごしておりますが、あっという間に2月、4日（水）には立春を迎え、暦の上では春になります。前日の3日（火）は節分、「季節を分ける」

「季節の変わり目」で、豆まきをしたり、恵方巻を食べたりするご

家庭も多いのではないのでしょうか。無病息災を願う年中行事の一つとして、家族みんなで仲良く豆まきなどをして過ごすのも、子どもたちにとって楽しい思い出になることでしょう。

2月8日は「針供養」の日です。1年間使って、折れたり曲がったりした針を、豆腐やこんにゃくのようなやわらかいものに刺して供養するというものです。この日に限っては裁縫仕事をやめ、日頃から使用している針に対して感謝の気持ちを表しました。豆腐など柔らかいものに刺すのは、これまで硬い生地などを刺してきた針に対し、最後は柔らかいところで休んでいただきたいという気持ちや、供物としての意味があるといわれています。昔はそれぞれの家庭で針供養を行っていたそうですから、身の回りの道具を大切にしてきた暮らしがしのばれる行事です。現代では使い捨てが当たり前になっている面もあり、ものに対する有難さや愛着をもちにくい環境ではありますが、けやきっ子には今年度これまで使用してきた学校の机やイス、ロッカーなど、身近なものに対して感謝の気持ちをもち、その気持ちを次に使う人にきれいに渡すという行為で示してほしいと思います。

さて、まだ鴻巣ではまとまった雪が降っていませんが、雪が降るのを楽しみにしている子どもたちも多いのではないのでしょうか。最後にこの時期にふさわしい金子みすゞさんの「積もった雪」という詩を紹介します。

積もった雪

上の雪	さむかろな。	つめたい月がさしていて。
下の雪	重かろな。	何百人ものせていて。
中の雪	さみしかろな。	空も地面(じべた)もみえないで。

雪を擬人化し、相手(雪)それも上・中・下3層の雪それぞれの立場に立って気持ちを押し量り、深い思いやりの言葉をかけているのが心に響きます。金子みすゞさんは、動植物だけでなく、自分の周りにあるすべてのものにやさしい心を向けています。そのような視点や姿勢は、前述のものに対する感謝の気持ちにも繋がります。

いよいよ残り2か月となりましたが、今後も学校行事等を通して、「心豊かなたくましい子」の具現化を目指し、最後のまとめを粘り強く行ってまいります。

